(三) 勞働關係

(イ) 家族勞働の分配狀況

種目	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
耕種 水稻	一六・三 日	五・三 日	一・八 日	六・六 日	一〇・八 日	三九・七 日	二・〇 日	三・五 日	六・五 日	一一・四 日	三・九 日	四・〇 日	一三七・八 日
耕種 麥	一四・二	二・八	二七・〇	二五・四	三・〇	六・九	三・一	三・八	二九・九	二七・三	二五・八	七・七	二三一・一
耕種 其の他種	一・四	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
耕種 小計	三〇・五	二八・二	二八・八	三三・〇	三六・五	六四・七	五三・一	四五・三	三九・九	二八・七	六九・二	二一・七	四五八・六
養蠶	—	—	—	四・三	四二・六	一八・〇	—	—	三五・六	一九・〇	—	—	一一九・五
農産加工	二三・〇	—	二・一	五・八	二・三	〇・四	一・七	三・七	一・三	一・〇	一・〇	三・八	七四・一
其の他 堆肥刈草	一・五	二・〇	四・〇	六・一	七・一	九・五	一四・一	一四・九	一五・〇	一七・三	〇・八	〇・六	九二・九
其の他 其他	四・六	一・二	八・七	三・五	一四・五	六・三	一・三	二・七	一・五	二・六	一・七	二・三	五〇・八
畜産	八・二	六・二	一一・〇	一三・二	一〇・七	六・二	六・三	六・七	一一・三	九・三	七・七	七・六	一〇四・四
合計	六七・八 %	三七・六 %	四四・六 %	六四・九 %	一二三・七 %	一〇五・一 %	六六・四 %	七三・三 %	四四・六 %	七七・九 %	八〇・四 %	五四・〇 %	九〇〇・三 %
同上百分比	七・五	四・二	六・一	七・二	一三・六	一一・七	八・五	八・一	一〇・五	八・七	八・九	六・〇	一〇〇・〇

家族勞働の四季別分配狀況は、比較的均齊で繁閑の差は少ない、今各部門別の勞働容量を見れば、次の通りである。

種目　全勞働日數　四五八・六日　耕地反當勞働日數　四二・二日　同上百分比　五一・〇%

耕種勞働

養蠶、加工其の他勞働　三三七・三　三一・〇　三七・四

小計　七九五・九　七三・二　八八・四

畜産勞働　一〇四・四　九・六　一一・六

合計　九〇〇・三　八二・八　一〇〇・〇

即ち耕種、養蠶、加工其の他に於ける勞働日數は、七九五・九日となつてゐるが、之に畜産を合理的に配することに依つて一〇四・四日を增加し、總勞働日數九〇〇・三日耕地反當八二・八日と謂ふ勞働の集約度を示してゐる。

(ロ) 畜力の利用狀況

種目	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
耕種 水稻	— 日	〇・五 日	— 日	— 日	一・〇 日	一三・八 日	〇・五 日	— 日	— 日	— 日	五・五 日	— 日	二〇・三 日
耕種 麥	—	一・〇	—	—	〇・七	二・八	—	—	—	—	一〇・六	—	一五・一
耕種 其の他種	—	〇・五	—	—	一・五	—	—	—	二・五	—	—	—	四・五
耕種 小計	—	二・〇	—	—	三・二	一五・六	一・二	三・三	二・五	一・五	一六・一	—	三九・九
其の他 堆肥刈草	—	—	—	—	—	—	〇・五	—	—	—	—	—	六・〇
其の他 其の他	—	—	〇・五	—	—	—	—	—	—	—	〇・八	—	一・三
合計	—	二・〇	〇・五	—	三・二	一五・六	一・七	三・三	四・〇	—	一六・九	—	四七・二

備考　養蠶、加工には畜力を利用してゐない。其の他は堆肥、刈草雜仕事に畜力を利用したものである。

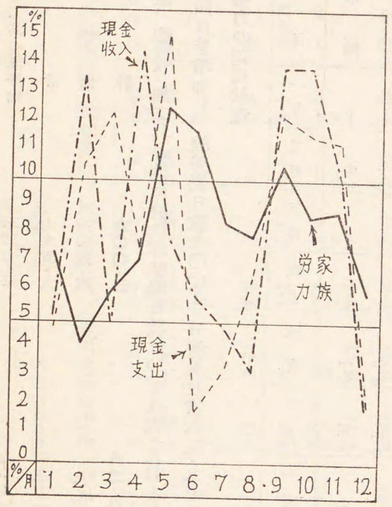
畜力利用は一、二ケ月の短期育成又は肥育牛であるにも拘らず、一、四、一〇、一二、の四ケ月を除く外は間斷無く有

効に利用されてゐる、今耕種其の他に就き四季別に人力と畜力の關係を見れば、次の通りである。

	耕種 人力	耕種 畜力	其の他 人力	其の他 畜力	計 人力	計 畜力	同上百分比
春	九七・三日	三・二日	四三・九日	〇・五日	一四一・二日	三・七日	七・八%
夏	一六三・一	一六・一	四八・七	四・五	二一一・八	二〇・六	四三・七
秋	一二七・八	一八・六	三八・九	二・三	一六六・七	二〇・九	四四・三
冬	七〇・四	二・〇	一二・二	—	八二・六	二・〇	四・二
計	四五八・六	三九・九	一四三・七	七・三	六〇二・三	四七・二	一〇〇・〇

即ち耕種に於ては、人力一〇日に對し、畜力〇・八日の割合で使用され、夏秋の二季最も良く利用されてゐる。

労働と月別現金收支の關係



(四) 金融關係

上述の通り家族の勞働力は比較的活用されてゐるが、之と月別現金收支との關係を見れば、上圖のようである。即ち家族勞働の分配は大體冬季下り春秋上るのが常であるが、月別現金收入の分配は秋より冬竝翌春にかけて肥育、育成牛を販賣するので、勞働の分配狀況とは相反する傾向を持つてゐる。而して現金收入は常に現金支出に先んじて收入となつてゐるから、經營資金の運用上甚はだ有利に動いてゐることが判る。之等は零細な妻、妹、父（六九歳）母（六二歳）の七九・八日の畜産勞働が生み出す收入であつて、圃場では一・〇の能力を出し得ない老幼婦女子も、畜産の勞働に依つて活用されたことを示すものである。

一〇、農業總收入

種目	主産物價額	副産物價額	增價額	計	同上百分比
耕種收入	一、〇三四・八五円	三二・八二円	—	一、〇六七・六七円	二三・五%
内譯 稻作收入	四七一・〇六	二六・八九	—	四九七・九五	一一・〇
其の他作物收入	五六三・七九	五・九三	—	五六九・七二	一二・五
養蠶收入	一七五・九〇	一〇・六〇	—	一八六・五〇	四・一
農産加工收入	八九・五一	四・四〇	—	九三・九一	〇・五
其の他收入	二五・一二	—	—	二五・一二	二・一
畜産收入	二、九五四・〇四	八一・四七	一三七・〇〇	三、一七二・五一	六九・八
合計	四、二七九・四二	一二九・二九	一三七・〇〇	四、五四五・七一	一〇〇・〇

農業總收入の内最も大きなものは畜産收入の七割弱であつて、之は素牛の價額二千六百十七圓八十錢が含まれてゐる。從つて之を差引いた五百五十四圓七十一錢が畜産の大體純收入となる譯であり、總收入に對しては二八・八%に當る。

一一、農業經營費

種目	購入又は現金支出	自給又は見積支出	計	同上百分比
建物農具費	四・〇三円	六・八二円	一〇・八五円	〇・三%
種苗費	二二・九二	〇・七八	二三・七〇	〇・七
肥料費	四五・四二	九六・四四	一四一・八六	四・四
桑葉費	—	七五・三六	七五・三六	二・三
光熱費	六・一四	〇・五〇	六・六四	〇・二
藥劑費	四・七九	—	四・七九	〇・一
加工原料費	—	四七・五七	四七・五七	一・五
雇傭勞賃	三・六〇	—	三・六〇	〇・一
畜力費	—	四七・二〇	四七・二〇	一・四
諸公課	九三・〇七	—	九三・〇七	二・九
小作料	一・三〇	—	一・三〇	—
其の他	五六・三五	—	五六・三五	一・七
家畜購入費	二、六一七・八〇	—	二、六一七・八〇	八〇・三
家禽購入費	五・〇〇	—	五・〇〇	〇・二
飼料費	三七・〇二	八九・五八	一二六・六〇	三・九
合計	**二、八九七・四四**	**三六四・二五**	**三、二六一・六九**	一〇〇・〇
同上百分比	八八・七%	一一・三%	一〇〇・〇%	

即ち經營費用は購入八八・七%に對し、自給は一一・三%であつて、極めて現金支出部分多く景氣の良否に強く影響されるように一應は見られるが、仔細に之を見るとき收入に於て述べた通り家畜購入費に素牛の價額が含まれてゐるから、購入費の多額を以て直ちに彈力性無き經營費と見ることは强ち出來無い、從つて此の素牛購入費を除いた自給、購入の割合を見れば、經營の內容は自給三百六十四圓二十五錢、購入二百七十九圓六十四錢、計六百四十三圓八十九錢となり、自給は五六・六%購入が四三・四%と謂ふ割合に當る。

一二、農業所得

種目	價額	耕地一反當	家族從業者一人當	家族勞働一日當	經營費に對する所得の割合
農業總收入	四、五四五・七一円	四一八・一九円	一、二二八・五七円	六・一七円	—
農業經營費	三、二六一・六九	三〇〇・〇六	八八一・五四	四・四三	—
農業所得	一、二八四・〇二	一一八・一三	三四七・〇三	一・七四	三九・四%

農業所得一千二百八十四圓二錢は、耕地一反當を以て見れば百十八圓十三錢家族從業者一人當より見れば三百四十七圓三錢となり、更に家族勞働一日當所得を見れば一圓七十四錢を擧げ、夫々良好な成果を納めてゐるものと謂へる。

一三、畜産の機能が特に農業經營及農家經濟に及ぼした効果

(一) 家畜飼養に依り肥料、飼料、勞力等の自給部分を增加し、且多種の生產物に依つて農業經營の安定を得たこと、

(二) 厩肥の施肥に依り地力を增進蓄積して作物の增收を來し、金肥の節約副產物の利用等に依つて生產費が著しく低下したこと、

(三) 厩肥利用に依り園藝作物の促成、抑制栽培等を有利になしたこと、

(四) 家畜飼養に依り家族の餘剰勞力を利用し、收益化したこと、

(五) 牛豚の肥育に依つて資金の運轉を速め、經營の收益性を高め併せて金融を著しく圓滑ならしめたこと、

| | | |

有畜農業經營成績一覧表

（昭和七年度）

| 種別＼農家目 | 農業總收入 | 農業經營費 | 農業所得 | | |

有畜農業經營成績一覽表

（昭和七年度）

別	種類	家族	度數	別地	入給	入へ	入へ	種類	入給	産畜	得獲	入合計	物品	賣販
山形縣（東置賜郡）	を造耕配に稚、し乳し用養經牛蠶、營及採立賜屠卵廃雞	男三人 女一人	九反	六〇〇	一四〇〇	三五〇〇	七六〇	三五〇〇	一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
神奈川縣（都筑郡）	經營を蓄如配稚作（川蔬し用肉した近豚來郊、採豚養集耕蔬）約用牛に	男四人 女二人	八反	三〇〇	二四〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
岡山縣（苫田郡）	用肉蠶田兎豚、蓄稲し及し卵た鶏耕用採稚牛用耕、養皮、經營毛牛種	男三人 女四人	一反	三〇〇	二四〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
鳥取縣（西伯郡）	兎育農其稲産の作を、加他を主し用工耕主と稚、し、蓄た牛と稚養皮、經營毛稚養皮、算之に肥	男一人 女一人	八反	三四〇〇	二四〇〇	三五〇〇	一〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
鳥取縣（八頭郡）	し卵に稲た鶏蓄作稚經營毛及主皮耕と用用し、兎牛、養を配算蠶	男二人 女二人	一反	三六〇〇	二四〇〇	三五〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
島根縣（鍵川郡）	た育耕作蔬經成稚を人の蓄牛、主の蓄養と蓄牛、養と蓄と肉蠶し、飾、力豚に、肥共で、肥育のし及他稲	一 女三人	九反	三〇〇〇	二四〇〇	三〇〇〇	一〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
大分縣（玖珠郡）	配稚米麥し耕耕經用炭營及製育成造牛に蓄	男二人 女四人	一一反	四〇〇	一四〇〇	三五〇〇	一〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
大分縣（南海部郡）	營及蠶米耕、麥用農其牛產の他を加他配工耕しに稚、した肥經育養	男二人 女三人	七反	三〇〇	二四〇〇	三五〇〇	一〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

別	種類	家族	度數	別地	入給	入へ	入へ	種類	入給	産畜	得獲	入合計	物品	賣販
山形縣（東置賜郡）	蠶繭	女一人	九反	六〇〇	一四〇〇	三五〇〇	七六〇	三五〇〇	一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
神奈川縣（都筑郡）	使用役畜	男四人 女二人	八反	三〇〇	二四〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
岡山縣（苫田郡）	蠶繭	男三人 女四人	一反	三〇〇	二四〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
鳥取縣（西伯郡）	蠶繭	男一人 女一人	八反	三四〇〇	二四〇〇	三五〇〇	一〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
鳥取縣（八頭郡）	蠶繭	男二人 女二人	一反	三六〇〇	二四〇〇	三五〇〇	一〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
島根縣（鍵川郡）	存成豚	一 女三人	九反	三〇〇〇	二四〇〇	三〇〇〇	一〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
大分縣（玖珠郡）	蠶繭	男二人 女四人	一一反	四〇〇	一四〇〇	三五〇〇	一〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
大分縣（南海部郡）	存成豚	男二人 女三人	七反	三〇〇	二四〇〇	三五〇〇	一〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

昭和十年三月二十五日印刷
昭和十年三月二十八日發行

農林省畜産局

東京市芝區芝浦町三丁目二番地
印刷者　川口芳太郎

東京市芝區芝浦町三丁目二番地
印刷所　川口印刷所

電話三田(45)八〇〇一番
三二七八番